5-5 生態系を活用した防災・減災（Eco-DRR）適応策の検討口

大項目	小項目	チェック	チェック項目	備考
影響予測手法及び予測結果（人工林のピーク流出低減効果）	（影響予測手法） 現況の再現性		現況を再現できている	複数の洪水イベントの洪水水位ハイドログラフ、特にピーク水位を1組のモデルパラメータセットで再現できた。
		○	現況を概ね再現できているが、一部現況の再現が困難な点があった	
			現況再現を実施していない	
	（影響予測手法） 他地域での応用可能性		気候シナリオを入れ変えれば、他地域でも実施可能	影響予測手法については、既存研究において別地でも実施しており、他地域でも実施可能。
		○	気候シナリオに加え、他の入力データを入れ換えれば、他地域でも実施可能	
			本調査の対象地域のみ利用できる	
	（影響予測手法） 応用に必要な技術レベル		多くの行政担当者が自ら実施可能である	タンクモデルのパラメータ同定に精通した技術者・研究者のサポートが必要。
		○	気候シナリオや影響予測モデルを扱うことができるコンサルタントや研究者のサポートが必要	
			研究者等の指導の下でなければ実施は難しい	
	（影響予測結果） 活用可能性		行政の活用の観点から、妥当と思われる予測結果が得られた	本結果においては、特定の調査地の結果を反映しており、考え方を活用することは可能であるが、他地域での展開の際は、諸条件の違いも考慮する必要があり、活用する際は、活用先のデータ収集なども実施する必要がある。
			概ね妥当な結果と考えられ、行政で活用が可能であるが、さらに検証を実施することで、より精緻な予測結果が望める	
		○	行政で活用するためには、引き続き調査やデータ収集などが必要	
影響予測手法及び予測結果（窪地地形での湛水）	（影響予測手法） 現況の再現性		現況を再現できている	過去の台風到来の際のデータで検証済み
		○	現況を概ね再現できているが、一部現況の再現が困難な点があった	
			現況再現を実施していない	
	（影響予測手法） 他地域での応用可能性		気候シナリオを入れ変えれば、他地域でも実施可能	土地利用データ等を入力すれば可能
		○	気候シナリオに加え、他の入力データを入れ換えれば、他地域でも実施可能	
			本調査の対象地域のみ利用できる	
	（影響予測手法） 応用に必要な技術レベル		多くの行政担当者が自ら実施可能である	影響評価に用いたモデルは市販しているものを活用している。専門とする技術者等によるパラメーターの調整は必要である。
		○	気候シナリオや影響予測モデルを扱うことができるコンサルタントや研究者のサポートが必要	
			研究者等の指導の下でなければ実施は難しい	
	（影響予測結果） 活用可能性		行政の活用の観点から、妥当と思われる予測結果が得られた	湛水量については示しているが、周辺への減災効果について定量的に示すには至っておらず、今後、引き続き、検討が必要。
			概ね妥当な結果と考えられ、行政で活用が可能であるが、さらに検証を実施することで、より精緻な予測結果が望める	
		○	行政で活用するためには、引き続き調査やデータ収集などが必要	
適応オプション	適応策の妥当性		革新的な適応策を提示できた	人工林の林相改善、窪地地形での湛水ともに結果に対応した適応策を提示した。
		○	影響予測結果に対応した適応策を提示した	
			影響予測結果と必ずしも一致しないものも含め、分野の一般的な適応策の提示を行った	
	導入可能性		他地域で実施・導入が可能である	・適応オプションについて、他地域でも実施しているものもある。 ・一方、本影響評価結果は、対象エリアの結果を示すものであり、他地域での展開には調査、検討をしたうえで展開していくことが必要となる。
		○	本調査の対象地域でのみ実施・導入が可能である	
			本調査の対象地域で導入するには、さらなる調査、検討が必要である	
	他分野との関連性		他分野に相乗効果や副次効果が生じる	・減災効果と生態系向上においては相乗効果が生じる。 ・一方、経済性とトレードオフの関係になるケースがあり、トレードオフを解消する支援策等が必要。
			対象分野のみに効果がある	
		○	他分野にマイナスの影響を与える可能性があるため、導入の際に留意が必要である	
	適応策の多様性		適応オプションを多様な視点から5つ以上提案できた。	人工林に関する適応オプション実装策（2つ）、窪地地形に関する適応オプション（5つ）を提示している。本調査は、当初より検討の視点を絞り、特定エリア・特定テーマを対象として実施している。
			適応オプションを5つ以上提案できたが、調査対象の特徴などから適応策検討の視点が限られていた	
		○	調査対象の特徴などから適応策検討の視点が限られたため、提示できた適応オプションも限られた	

（※1）現況の再現性とは、現在の状況を予測モデルが再現できている度合いのこと。通常、将来予測を実施する前に、モデルの妥当性を確認するため、現在の観測値等を利用して、予測モデルが現在の状況を再現できているか確認している。